



宮崎縄文人は、進んでいた？

上の写真は、佐土原町大字西上那珂（東九州自動車道線）の長園原遺跡から検出された縄文時代早期の陥し穴の遺構です。陥し穴は動物を捕るために掘られていた穴で、底には落ちてきた動物を串刺しにするための逆茂木（先の尖った槍の様な棒）が刺してあったと考えられます。

この陥し穴で注目すべき点は、底に見える石です。左側の小穴の四個の石は、逆茂木の太さに合わせるため、置き方の工夫がしてあります。一つ一つの石は逆茂木をしっかりと固定するために表裏が平たい煎餅のような石を選び、逆茂木に接する面を大きくして固定力を高めるために使用していたようです。他の小穴からも煎餅状の石が出土しています。これは底が粘土層のため動物が落ちてきた時の衝撃を考えて補強したものでしょうか。長園原遺跡では、このような陥し穴がほかにも見つかっています。小穴に石をつめるという工夫は、大分県の遺跡でも報告例がありますが、宮崎の縄文人は石の配置及び石の選択という点から一歩進んだ工夫をしていたようです。

遺跡の紹介

内屋敷遺跡 (小林市大字真方)

遺跡は標高212mの台地上に位置し、調査の結果、弥生時代末～古墳時代初頭の竪穴住居1軒、古代の掘立柱建物跡1棟など縄文時代早期～古代まで幅広い時代の遺構や遺物が出土しました。

特に縄文時代早期の住居跡と思われる柱穴跡が11軒、炉跡と考えられる石組み8基のほか大量の土器や石器などが確認され、南九州の縄文時代の始まりを考える上で重要な遺跡となりそうです。



別府原遺跡 (西都市大字鹿野田)

遺跡は標高100mの台地上に位置し、調査の結果、縄文時代早期の炉穴が320基以上確認されました。

この炉穴は、炉部と足場と呼ばれる2つの穴をトンネルでつなぎ、足場より火を焚いて調理を行ったものと考えられています。ここでは、炉穴の大半が写真のように重複して見つかっています。これは、トンネルが落ちた為にその穴を利用して、次々と作り替えていったものと思われるます。



倉岡遺跡 (宮崎市大字金崎寺尻ほか)

遺跡は、宮崎市と国富町の境を流れる本庄川の右岸に形成された標高約20～50mにかけての小高い丘稜に位置しています。

調査の結果、縄文時代早期の集石遺構や古墳時代後期および平安時代の竪穴住居跡6軒、土坑2基、柱穴などが確認されました。また、遺物としては縄文時代後期の土器や石鎌・石斧など石器類のほか古墳時代から江戸時代までの土師器や須恵器、黒色土器、古銭など幅広い時代のもので出土しています。



鶴野内中水流遺跡 (東郷町大字山陵)

遺跡は、耳川の氾濫などにより左岸に形成された標高約30mの自然堤防上に位置しています。

調査の結果、弥生時代中期から古墳時代後期にかけての竪穴住居跡が34軒確認されました。耳川流域での集落の確認例としては最大規模であり、この地域一帯に大規模な集落が営まれていたことが想像できます。その他、江戸時代終りごろの掘立柱建物跡やカマド跡などが確認されています。



山城に行ってみよう！

宮崎県には、約300ほどの山城跡があると言われていま
す。小さな砦跡まで含めるとその数はさらに増えるでしょ
う。ここでは、簡単な山城の楽しみ方を紹介します。

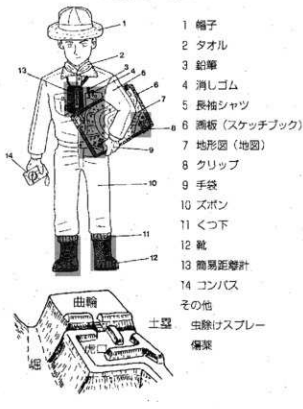
最初は、身近な所にある城趾で行くのが良いでしょう。
図のような装備をして行けば完璧ですが、尖った刺つきの
草木から身を守る服装をして行けば大丈夫です。

さて、城趾に着いたら教育委員会の立てた城の説明の
看板を読んでみましょう。城の構造や歴代の城主、何時
の頃の合戦に使われたのかなどが書いてあります。中に
は、小説やゲームで御馴染みの有名な武将も登場してい
て結構楽しめます。基礎知識が入ったら頂上目指して歩
いてください。平らな部分が見えてきます。これが曲輪
(郭ともいいます)です。山の頂上部はほとんどの場合主
郭(江戸時代でいえば本丸部分)となっていますから、
ここに来たら城主になったつもりで、どの様な施設を造
れば敵の攻撃や侵入を防げるか考えてみましょう。そう
すると曲輪の回りに土を盛りたり(土塁)、道をわざと曲
げ入ってくる敵を側面から攻撃できるような場所(虎口)
を造ったり、城の回りを掘り下げたり(堀)するなどの
考えが浮かんでくるとと思います。これらのことを頭に入

れて今度は山を下って行けば、曲輪の縁のちょっとした高まりや道の曲がり方、城の回りの窪みなどに目がとま
って来ます。また、降りる時に下から曲輪のある部分を見上げて見ると小さな城でも結構重圧感があり、下か
ら攻めるのがたいへんなことがよく分かります。さらに城に親しみたい人は、城の縄張り図(見取り図)を自分で
描いてみるとよいでしょう。この時、城趾の載っている地形図があると便利です。

小春日よりの日にあなたも中世や戦国のロマンに浸りに近くの城趾にでかけてみてください。

城郭調査用具



遺物あれこれ(古代人の知恵を見る ①)

「大足」って何だ？

右の写真を見てください。これは何でしょう？

ハシゴ？ 窓枠？ これは「大足(おおあし)」と言います。

古墳時代に使われた木製農耕具の一つです。

平成8年11月、宮崎市前田遺跡の発掘調査で出土しました。

真ん中の下駄状の部分に足を乗せて、水田で使いました。

「足が沈まないため？」いいえ違います。逆に土の中に踏み込

んで使います。緑肥(草や糞、肥料)を土中に混ぜこんで土

力を高める(有機質を増やす)ためです。「大足」は全国で数十例の出土が知られていますが、完全な形状を保
って出土したのは前田遺跡を含めて5、6例ほどです。古墳時代に入ってから全国に普及し、昭和の初期まで実際に
使われていました。現代にまでつながる耕作法が古墳時代には確立していたことを物語っているのです。こうした
農耕具の普及は、稲作全体の技術革新とも考えられ、生産力の向上をもたらしたものと思われます。前田遺跡の大
足は溝(水路)の中から出土しましたが、この溝から出土した土器がすべて6世紀後半のものであったので、大足
も同じ時期に使われたものと判断されました。どうも両足に履いて歩くのは大変そうですね…。



前田遺跡出土大足(84×45cm)

教育普及係から

センターでは、年4回「コーナー展」として最新の発掘調査の成果を展示し、あわせて遺物整理作業を見学できるようになっています。また、毎月第4土曜日には埋蔵文化財講座「遺跡をたずねて」を開催し、11月の文化財保護強調週間には「施設公開」を行っています。さらに、調査成果を広く公開するため「現地説明会」を実施するなど、直接埋蔵文化財にふれていただくよう各種の普及活動を行っています。

施設内の見学や遺物や遺跡のことについての問い合わせなど随時受け付けていますので、お気軽においで下さい。

1. 埋蔵文化財講座「遺跡をたずねて」

平成8年度は、「日向の城を読む」という年間テーマを設定し、中世城館の概説や各地域で調査された城址の概要などの講義を行っています。そのなか、6月には県民文化ホールで「日向の城を読む-山城を見る・聞く・歩く」と題し、全国からみた日向の中世城館の特色について考えるシンポジウムを開催し、200名を超える方々に参加していただきました。

2. 施設公開

11月2日、文化財保護強調週間に合わせ施設内を一般に公開しました。縄文土器の文様の復元、拓本、土器の接合などの体験学習や赤外線カメラによる墨書土器の観察、鉄鏡・鉄刀など保存処理の実演のほかビデオ上映も行いました。

3. 現地説明会

国富町木脇遺跡で8月3日(日)、現地説明会を開催しました。当遺跡では旧石器時代から中世の幅広い時代の遺構・遺物が発見され、各時代の生活などを知るうえで良好な資料になりそうです。

これからも、各地域で実施していきたいと考えていますので、現地説明会に参加して古代のロマンに思いを傾けてみませんか？



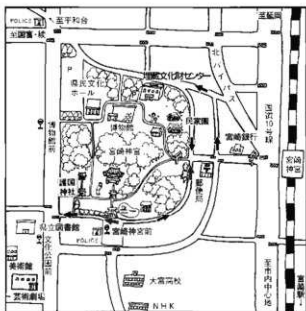
シンポジウム



施設公開



現地説明会



交通案内

- 宮崎神宮駅 (JR) 徒歩10分
- 宮崎神宮行きバス - 神宮終点下車徒歩10分
- 線・国富・平和が丘行きバス - 「博物館前」下車徒歩2分

観覧時間

午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで)

休館日

毎週月曜日

国民の祝日の翌日

年末年始 (12月28日～1月4日)

- 入館料 無料

宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎市神宮2丁目4-4 (〒880-0053)

TEL 0985-21-7600 FAX 0985-26-2634